

【01】「ノードフ・ロビンズ音楽療法の理論と実践 – 対象者と共に即興音楽を生き生きと奏でるために –」

【講師】岡崎 香奈

【要旨】

ノードフ・ロビンズ音楽療法とは、アメリカ人の作曲家／ピアニスト、ポール・ノードフ(1909-1977)とイギリス人の障害児教育家クライヴ・ロビンズ(1927-2011)が、共に創り出した即興音楽療法アプローチである。多様なコミュニケーションの媒体として、対象者の自発的な「創造性」を引き出す即興音楽を活用するこのアプローチは、別名、創造的音楽療法(Creative Music Therapy)とも呼ばれている。

ノードフ氏とロビンズ氏は、1959年からイギリス、アメリカ、ドイツ、北欧等で臨床および研究活動を行い、1974年にはイギリスで養成教育を開始して、世界初のノードフ・ロビンズ音楽療法センターを設立した。1977年ノードフ没後も、クライヴとキャロル・ロビンズ(1942-1996)夫妻が臨床と養成教育を展開し、ドイツ、オーストラリア、アメリカにもノードフ・ロビンズ音楽療法センターを開設していった。

日本では、1984年にロビンズ夫妻が初来日し音楽療法セミナーを行った。それ以降、夫妻以外にも多くのノードフ・ロビンズ音楽療法士たちが日本でレクチャーやワークショップを行い、このアプローチが広く普及していったのである。特に、1993年から2010年にかけて日本で頻繁に開催されていたセミナーの受講経験がある方は、当時の熱気溢れるプレゼンテーションを覚えておられることであろう。

海外でノードフ・ロビンズ音楽療法士の資格を取得し帰国した日本人を中心に、2007年8月には日本ノードフ・ロビンズ音楽療法士会(Japanese Federation for Nordoff-Robbins Music Therapists)が発足され、日本における本アプローチの臨床研究および普及啓蒙活動が展開されてきた。そして2021年には「名古屋音楽大学大学院(愛知)」と「日本ノードフ・ロビンズ音楽療法トレーニングプログラム(東京)」の2校がNordoff-Robbins International(国際ノードフ・ロビンズ音楽療法トラスト)より正式な認可を受け、「ノードフ・ロビンズ音楽療法士の国際資格(NRMT Diploma)」を付与するトレーニングプログラムを開始し、すでに多くの資格取得者を輩出している。また、京都でもノードフ・ロビンズ音楽療法クリニックが認可された。

本講習では、ノードフ・ロビンズ音楽療法の歴史的な背景、基本的概念と理論、実践における特徴を概観し、即興音楽の臨床的活用方法とその意義について、映像や音源を用いながら詳しく解説する。また、このアプローチを日本の音楽療法界に取り入れることの意味や音楽療法士養成教育におけるニーズなどについても言及する。

音楽療法現場で対象者と共に即興を生き生きと奏でることに興味のある方は、ぜひ受講していただきたい。

【プロフィール】

国立音楽大学教授、芸術学博士。英国王立音楽院ピアノ科卒業。ロンドンノードフ・ロビンズ音楽療法センター養成課程修了、ニューヨーク大学大学院音楽療法学科博士課程修了。英国／米国公認音楽療法士。ノードフ・ロビンズ音楽療法士・教員資格(Level 3)取得者。世界音楽療法連盟理事・養成教育資格認定委員長。Nordic Journal of Music Therapy アドバイザリ編集委員。日本ノードフ・ロビンズ音楽療法トレーニングプログラム(東京)トレーニングディレクター。